

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

自主防災組織の結成率が高い

上越市はNPO法人をはじめ、市民活動団体が県内でも多く、市民活動が盛んな地域です。

防災面では、町内会を単位として防災活動を行う自主防災組織の結成率が高く、県内でも上位の結成率です。また、市内全域に防災士がおり、防災意識が高いまちだと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

横のつながりが薄い

自主防災組織ごとに防災活動を行っていますが、単独での活動に留まってしまい、組織同士での情報交換や横の連携がうまくとれていないと感じています。

また、市街地では担い手となれる人がたくさんいるものの、町内会活動への関心が低く、つながりが薄いと感じています。

一方で、山間部は住民同士のつながりはあるものの、高齢化の影響もあり、担い手が不足しているなどの課題があります。

今後、さらに人口が減少する中、自主防災組織同士の横のつながりを作り、地域防災力の維持に取り組む必要があると感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになっていればいいと思いますか。

市民一人一人、自助・共助の意識が高いまち

学校等での防災教育をはじめ、町内会同士が連携し合い防災活動に取り組むことで、市民一人一人が、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の意識が高まり、地域の防災力が高まったまちになっていればよいと思います。



（防災訓練の様子）

活力とコミュニティが維持されたまち

自然や歴史・文化、広域交通網の充実など、上越らしいポテンシャルをいかして、今あるまちの活力を将来にわたって維持できればよいと思います。また、防災士会の活動を通じ、住民同士の助け合いができるような地域コミュニティを維持していけたらよいと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

地域内でのつながりの構築

町内会の組織は、防災活動のみならず、地域の暮らしにおける重要なコミュニティです。

近年ではコロナ禍の影響もあり、地域での防災活動などが滞っているため、町内会活動などに興味を持ち、地域内で人と人がつながる仕組みやきっかけづくりが必要だと感じています。行政には、市民同士や地域同士がつながる仕組みを構築し、地域が活性化するような取組を展開してほしいと思います。

防災教育の推進とPR活動

地域防災力の向上に向け、研修会を開催するほか、学校や公民館活動、高齢者サロンなどの様々な場において、防災教育に取り組むことで、市民一人一人の防災への意識を高めていきたいと考えています。

また、当会の活動内容を市内各地でPRすることで、多くの方が防災士を目指すきっかけとなってくれたらよいと思っています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

インフラが整備された地方都市

高速道路・新幹線・港を有するなど、ここまでインフラが整備されている地方都市は珍しいと思います。また、物流・交流などの経済面において、地理的に長野や富山などの大きな商圈にも近いため、整備されたインフラは大きな強みだと感じています。

豊かな自然とおいしい食べ物

キャンプ場やスキー場もあり、豊かな自然をいかした活動ができることが魅力だと感じています。

また、全国様々な地域と比べて、市内産の食べ物はおいしいものが多いと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

担い手の確保における不安

上越市の人口は毎年約 2 千人減少しており、雇用の面から、担い手の確保について不安を抱えています。人口減少の危機感は、行政や企業だけでなく、市民一人一人がその危機感を認識していく必要があると感じています。

地域内でお金が回っていない

海水浴や観桜会などで市内外から多くの人が訪れますが、それらの魅力と商売がうまくつながらず、地元の商店街などを通じて地域内にお金が循環していないと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。

子どもたちが戻り、若者が活躍できるまち

子どもたちが郷土愛を感じ、地元に戻って来るようなまちになっていたらいいなと感じています。また、若者が失敗を恐れずに新しいことにチャレンジしやすい環境が整っていたらいいなと思います。



（高校生に上越や地元企業を紹介する出前講座の様子）

地域の稼ぐ力が高いまち

来訪者と呼び込むだけでなく、魅力的な地域資源をいかした稼げる仕組みまでを考え、それに組み込むことで地域の稼ぐ力が高まり、まち全体が活性化していくと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

地元企業を知る取組の継続

子どもたちが地元のことを知らないと、大人になった時に戻る選択肢にすら入ってこないと思います。

当会議所では、教育分野と連携し、地域にどんな企業があるのか知ってもらう出前講座等に取り組み、就職を考える際の 1 つのきっかけとなってもらえたらと思っています。

また、今後、行政と連携し、就職を考えている首都圏に住む、地元ゆかりの大学生とつながる仕組みを整え、一人でも多くの若者が上越市に戻って来られる機会の提供ができればいいなと考えています。

分かりやすい情報発信

地域のお祭り一つとっても地域だけで実施するのがやっと、というところもあります。今後、人口が減少する中、地域課題の解決に向け、ますます行政との連携が重要になると感じています。

行政には、市民に向けた分かりやすい情報発信を心がけていただくとともに、市民に近いところで活動に対する相談やサポート、意見交換ができるようになるのいいなと感じています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀️ 地域のことに一生懸命な高齢者が多い

自身の健康増進に努めることはもちろん、社会貢献に意欲的な高齢者が多く、仲間と一緒に美歩活動やボランティア活動を行うなど、地域を支える元気な高齢者がたくさんいます。

☀️ 身近に楽しめる自然

とにかく自然がそばにあり、子育てする環境に適していると思います。高齢になっても山や海を眺め、四季の移ろいを感じられます。自宅の庭の手入れも暮らしの楽しみの一つになっていて、都会生活にはない良さだと思います。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁️ コミュニティの維持が難しくなっている

様々な社会変化を背景として人口減少が進み、資金面でも人数面でも地域単位で組織を維持していくことが難しくなっています。市内でもうまくいっている団体、解散する団体と差が出てきます。女性リーダーを育てるなど、活動に参加しやすい雰囲気作りが必要だと思います。

☁️ 地域の核となる人材の不足

広域合併で行政がスリム化した分、行政と共に活動し、各地域を支えていた人材の衰退に拍車がかかってしまったように思います。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。

🏠 その人らしい居場所があるまち

社会の第一線から離れ、子どもも巣立った高齢者世代は、残りの人生を生きがいをもって元気に過ごしたいと願っています。

個人的な趣味の充実だけでなく、様々な会や団



（左：ゲートボール大会の様子）



（右：ポールウォーキング講習会の様子）

体に参加し、人と関わりながらいきいきと健康に、自分らしく居られる場があるまちがよいです。

🏠 子育てしたいと思えるまち

孫が家にいなくても、家の前を通学する子どもとの何気ない会話が高齢者に元気をくれます。子どもとの関わりに喜びを感じる高齢者がたくさんいます。そのため、地域に子どもがいる日常を目指して、若い人に出会いがあり、子育てしたいと思えるまちになってほしいです。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

💡 交流の機会を創出する取組

高齢者の孤立を防ぐためにも、一番身近な地域コミュニティに参加することは重要だと思います。

価値観が多様化し、団体より個人を重んじる風潮がありますが、コロナ禍において「集いの場」が減少し、ストレスを感じている高齢者が多く見受けられます。様々な人や世代と関わり、楽しさを感じられる交流の機会を創出する取組が必要だと考えます。

💡 高齢者の声に寄り添った取組

高齢者の困りごとに対応することは、その地域の存続に大きな影響を与えるため、行政には、高齢者の声に寄り添った取組を求めます。

例えば、体の衰えにより、当たり前に行っていた買い物に出かけることも難しくなってきたというような悩みの声を、行政はすくいあげ、対応に取り組んでほしいと考えています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀ 食の魅力、豊かな自然環境がある

食の魅力、恵みが豊かで、くびき和牛などの上越ならではの産品が多いところが強みだと思います。また、高田城址公園の桜と海や山の豊かな自然環境に恵まれているところも、自慢できる強みです。

☀ 新潟米ブランドがある

米需要が落ち込む中、関東、関西への流通において、新潟ブランドは強みとなっています。中でも、上越産米は9年連続最高ランクの「特A」の評価を受けています。

☀ 安心して住みやすいまちである

災害が比較的少なく、高速道路や新幹線などの広域交通網が整っているため、近隣県にもアクセスしやすく住みやすいまちだと感じています。また、子育てを通じて、上越市の子育て支援サービスの充実を実感しています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁ 地域の魅力を活用しきれていない

強みでもある上越の食や自然の魅力に加え、果樹園、ワイナリーや酒蔵などの魅力的な地域資源をうまく生かし切れていないように感じます。

☁ 車での移動が前提である

郊外に商業施設などが点在しているため、買い物や1つの場所で終わらないところが不便だと感じます。また、公共交通の便が悪く、車での移動が前提となっており、運行ルート設定の工夫が必要だと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。



（上越妙高駅前でのイベントの様子）

📍 賑わいが生まれるまち

果樹園、ワイナリーや酒蔵などの魅力的な地域資源を活用するほか、商業施設等の誘致などによって、子供たちや多くの市民が賑わいを見せているまちになっていけばいいと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

🕒 地域資源を磨き上げる

様々な地域資源の磨き上げと同時に商業施設の誘致や公共交通の充実に取り組んでいく必要があると思います。また、米をはじめ豊かな食の魅力を守るため、多面的な機能を持つ森林の整備にも力を入れていく必要があると思います。

🕒 縦横のつながりで地域課題を乗り越える

自然の恵みを体感することができる民泊や田舎体験などの取組と連携して農家での農業体験の提供などに挑戦していけたらいいと考えています。

米については、新潟ブランドをいかした販路拡大に取り組むほか、積極的に海外への輸出にも挑戦していきたいです。

また、えだまめなどの米以外の産品は、行政をはじめ、農業者、JAなどの関係者が自分事として一丸となって産地化を目指す必要があります。

様々な人々との縦横のつながりを強化し、様々な地域課題を乗り越えていければよいと思います。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

 仕事もプライベートも選択肢が広い

山・川・海など様々な自然や、市街地・田園地域・中山間地域など様々なエリアがあり、仕事・暮らし・遊びのどの場面においても幅広い選択ができるのが良いところだと思います。

仕事では、豊かな自然や平野部を有しているので、農林水産業や工業のほか、上越妙高駅周辺のローカル 5G をはじめ、中山間地域もネットワーク環境が整っており、IT 業を選択することもできます。

暮らしでは、市街地だけでなく、きれいな田園風景のある場所から、緑あふれる山での暮らしまで選択することができます。

遊びでは、山や海でのアクティブスポーツ、平野部でのショッピングなど市内だけで様々な体験ができます。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

 集落維持に不安を感じている

中山間地域では、地域おこし協力隊や私たちのような移住者など比較的若い世代が集落にいるものの、集落内の高齢化が進んでいるため、今後、集落を維持できるかという不安を感じています。

 担い手はいるが、協力・連携できていない

市内の各地区に地域おこし協力隊や市民団体など地域の担い手となるプレイヤーがいるものの、広域な地理的条件もあり、プレイヤー同士のつながりが薄く、孤軍奮闘する状態が続いています。各地区で活動するプレイヤーが協力できないのはもったいないと感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。



（森の下草刈りなど森林整備を終えた後の様子）

 若者が中山間地域に住みたいと思うまち

地域の担い手となる若者が安心して中山間地域に住みたい、訪れたいと思えるようになると、持続的な集落維持につながります。そのためにも、様々な不安を解消する取組を仕掛ける必要があると感じています。

 自給率が高く、域内循環するまち

恵まれた自然を生かし、市内の食料やエネルギーなど様々な自給率を高めることで、地域資源や地域経済が循環するようになると思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

 移住者・移住希望者のつながりをつくる

移住者や移住希望者がつながりを持てるイベントや仕組みを、行政と連携して作れるとよいです。移住者は移住者仲間を、移住希望者は先輩移住者を求めている、一同に集まることができれば、つながりの構築や不安解消などの効果が期待できます。

また、当団体では、移住に関する冊子の作成や、SNS を活用して、移住者の生活風景や魅力を発信することで、上越への移住を考えるきっかけになればよいと思っています。その他、当団体が行う味噌や漬物加工など地域に伝わる技術の継承や里山整備活動について、行政や移住者と連携し、地域の宝を残していきたいと考えています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

 共通話題にできる四季の風景や催しがある

海や山が近く、さらに、四季折々の風景があるので、通年で豊かな自然を楽しむことができます。また、観桜会や観蓮会、灯の回廊など季節ごとに催しがあり、それらの催しが福祉事業所の利用者との共通の話題となったり、レクリエーションとして催しに参加したりしています。

 歴史文化に関する偉人や名所が多い

コロナ禍のため、遠方に外出できない今だからこそ、市内の良さを再発見することができました。上杉謙信だけではなく、目を凝らせば、前島密や川上善兵衛などの偉人、地域の史跡など歴史文化の名所が多いことに気づきました。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

 障害者雇用が十分に進んでいない

10年前と比較して、障害者雇用に対する企業側の理解は一定程度進んでいますが、まだまだ現場での雇用が十分ではないと感じています。また、農福連携事業などの障害者雇用に取り組んでいますが、業種や職種の幅も広がっていないと感じています。

 団体の知名度が上がっていない

当団体を含め、市内で活動している団体の知名度が上がっていないと感じています。また、同じ目的を持った団体とつながりがなく、連携が十分にできていないのも課題だと考えています。

 市外へのPRがうまくいっていない

豊かな自然や歴史文化など誇れる地域資源は多くありますが、PRが弱いと感じています。例えば、SAKEまつりは首都圏の知人からポスターを見た反応がありますが、その他はあまり聞かないです。



（農福連携事業における大根の収穫作業の様子）

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。

 障害者雇用が推進されているまち

福祉事業所の外で活動する農福連携事業のような施設外就労だけではなく、業種や職種の幅が広がり、更に一歩進んだ障害者の雇用が実現されているまちになると良いと思います。

 住みたいまちランキングで上位なまち

1日遊べる商業施設や働く場所が確保され、若者が暮らし働けるまちになるとよいです。売りになるB級グルメもあつたらいいと思いますし、民間企業が行う「住みたいまちランキング」で上位になれば、市内外から注目されると考えています。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

 障害者雇用の多様化を進める

農福連携に関する取組は、県内他市と比べると、上越は先行しており、関係者の理解は進んでいるものの、地域全体にはまだ浸透していないと感じているため、当団体としても広く知ってもらえるような取組をしていきたいと考えています。また、冬場は農業の閑散期となるため、違った業種などとの連携も必要になると考えています。行政には、それらの活動推進に向けた支援や、民間企業と福祉事業所の橋渡しを担っていただけるとありがたいです。

その他、福祉への理解を広めるため、小学校における出前講座などにも当団体として積極的に取り組んでいきたいと思っています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

海にも山にも 30 分で行ける

海と山に隣接していることから、市内のほとんどの場所から約 30 分で海にも山にも行くことができます。夏は海でマリンスポーツ、冬は山でウィンタースポーツができるのも魅力の 1 つです。

また、豊かな自然があることで、四季それぞれで美しい景色があります。春は桜、夏は海と星空、秋は紅葉、冬は雪景色など、1 年を通して素晴らしい景色を見ることができます。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

20、30 代向けのイベントが少ない

市内では 20、30 代の若者向けのイベントが少ないように感じています。屋内で遊べる場所やデートスポットも少なく、せっかくの休日でも市外に出してしまうことが多いです。また、市内の若者同士の交流機会が少ないため、若者同士の輪が広がらないとも感じています。

地元を好きと堂々と言える人が少ない

地元である上越市を「好きだ」と堂々と言える人が少ないと感じています。市民が堂々とこのまちが好きだと言えないと、市外の人たちから観光に来てもらえるようなまちにはならないと思います。

まずは、市内に住んでいる人達に地元を好きになってもらう必要があると思います。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。

賑わいのある楽しめるまち

市内外のカップルや若者が食べ歩きを楽しみつつ、写真撮影をしているような、活気があり、楽しめるまちになっていたらいいと思います。



（スポーツ交流会の様子）

また、子どもたちが天候に左右されず、屋内で遊べる空間があるとよいと思います。

若者の声に寄り添ったまち

若者の声に寄り添い、挑戦したいことを応援・支援できるようなまちになるとよいと思います。

若者の市内で暮らす満足度や地域への愛着が高まり、市内に定住する人が増えると思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

若者目線のまちづくり

当団体では、若者や移住者が気軽に集まり、若者の目線から「上越にあったらいいな」を実現できるよう、地域貢献に取り組んでいます。

将来、上越市には消滅都市になってほしくありません。人口減少が進む今だからこそ、若者にとって魅力あるまちづくりに取り組み、地域に愛着をもつ若者が活躍できる環境づくりが必要だと思います。

行政には、小中高生を含めた若者世代と意見交換などの機会を設けて、若者の声を反映したまちづくりに取り組んでほしいと思います。

また、引き続き、当団体は若者のつながりや交流機会を創出する取組を行い、将来的には、市内全域の若者とつながりがもてるよう、活動の輪を広げていきたいです。

地元と同世代の仲間ができることで、それぞれの想いや悩みを共有し、若者が地元でより大きな挑戦ができると思います。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀ 歴史や文化がある

上杉謙信をはじめ、全国でも知名度がある偉人がいるほか、昔から続くお祭りがあるなど、歴史がある地域だと思います。

名立区では、市の無形民俗文化財指定や「地域の宝」の認定を受けている、昔ながらの雰囲気や今に伝える江野神社祇園祭が現在まで続いています。

☀ 新たな地域づくり団体の立ち上げ

人口減少、少子高齢化に立ち向かうため、不動産の2つのまちづくり団体を束ねた「輝く里不動産の会」が令和4年の春、立ち上がりました。地域に生まれ育ったことを誇りに思い、これまでの伝統をいかながら、新たな住民や新たな視点を加え、今後の不動産の地域づくりを担いたいと考えています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁ 人口減少・過疎化の進行

人口減少による過疎化の進行が著しく、今後も集落を維持していけるか不安があります。最近では、墓じまいの相談を受けることも多く、特に若者世代は、降雪量が多いことを理由にこの地から離れる人が多いように感じています。同時に空き家も増えており、防災や景観保全の面でも課題となっています。

また、生活に欠かせない商店、医療、福祉の不足など、暮らしを続けていく上での不安は強くなっています。

☁ 発信力が弱い

名立区のみならず、市内には魅力ある様々な地域資源がありますが、市内外への発信が弱く、注目度が低いと感じています。SNS など多様な広報媒体を活用して発信力を強化することが必要です。



（灯の回廊の開催に向け、準備をする様子）

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思いますか。

👤 子どもたちが自に残りたい、戻りたいと思うまち

地域で子どもたちがたくさんの思い出や経験を積んで、地域に愛着を感じ、自に残りたい、戻ってきたいと思うまちになると、人口減少や過疎化も緩やかになっていくのではないかと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

🕒 地域自らが考え、行動する

地域経済やコミュニティの衰退といった人口減少の影響が連鎖する中、今後、地域が自分たちで、自分たちのあり様を考えて行動していかなければならないと考えています。

「輝く里不動産の会」では、具体的な地域づくりの数値目標を定め、その達成に向け、全国屈指と言われる民有ブナ林と市内最大の水道水源を地域資源としていかながら、まちづくり協議会などと連携して、市民主体の地域づくりを進めていきたいと考えています。

また、地域内で増える空き家について、移住体験の場所として活用できたらよいと考えています。

行政には、こうしたまちづくり団体への支援のほか、移住・定住施策と合わせた各地域の紹介を積極的に行ってほしいと考えています。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思いますか。

☀️ 豪雪がもたらす豊かな農産物

上越市は豪雪地帯であり、特に中山間地域には非常に多くの雪が降ります。豪雪ならではの潤沢な雪解け水により、お米をはじめとした豊かな農産物が育ちます。

☀️ 地の利を生かした農産物の販売

上越市は首都圏と程よい距離に位置していることから、農産物の販売がしやすい環境といえます。配送料を低く抑え、鮮度を維持した農産物を首都圏へ販売することができます。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思いますか。

☁️ 伝統を大切にしながら、新しいことに弱い

昔から地域に根付いている文化や催しなどの伝統は大切にする傾向がありますが、一方で、新しいことへの挑戦をためらう傾向があります。伝統を守りつつ、新たな挑戦をする必要があると思います。

☁️ 過疎化・高齢化が進んでいる

中山間地域の過疎化・高齢化が進み、空き家が徐々に増えてきたと感じています。また、昔と比べると、小学校の入学人数が減ってきていることから、地域の担い手となる若者がいづれいなくなるかもしれないという淋しさと不安感があります。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。

🏡 住んで居心地よく、幸せを感じるまち

少子高齢化が進んだとしても、このまちに住んでいる一人一人が、その地を居心地よく、かつ、住んでいて幸せを感じるまちにできるとよいです。



（星の清里協同組合の創立総会の様子）

📍 地域の特徴をいかした賑わいのあるまち

それぞれの地域における魅力ある特色をいかし、担い手・地域資源・経済が市内で循環することで、上越市全体として魅力が高まり、賑わいあふれるまちになることを期待しています。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

🕒 地域の声に寄り添う

地域には、熱い思いをもっている人がたくさんいます。行政には、積極的に現場に出て、直接話を聞き、想いを受け止め、地域の声に可能な限り寄り添ってほしいです。

また、行政から団体への積極的な事業提案だけでなく、事業実施の際は、伴走できる体制を整え、事業の実施を見守ってほしいと思っています。

🕒 担い手を共有する

星の清里協同組合では、今後、地区内外から職員を募集し、複数の農業法人で人材を共有し合うことで、担い手不足を解消するとともに、新たな雇用を生み出す取組を行います。

あくまで、協同組合の設立は手段の一つです。最終的には、地域の活性化につながればと思っています。そして、担い手となる若者が、上越市に魅力を感じ、一人でも多く、上越市に定着できるとよいと考えています。

■上越市の強み(自慢できる点、満足している点など)は何だと思いますか。

 助け合いの精神がある

何百年と続くこの町内には、助け合いの心が形になった雁木を大切にするという想いが根付き、人情味あふれる良いまちだと感じています。

 地元高校生と協働している

景観づくりの活動では、「上越が好き」と言って活動に参加する高校生と一緒に活動することで、こちらも元気やひらめきなどをもらっています。

 子育てしやすく住みやすいまちである

はっきりとした四季の移ろいを感じることができ、保育サービスなどが充実し、子育てするにはとても良い環境だと思います。また、新幹線や高速道路といった広域交通網や幹線道路等が整備され、とても住みやすいまちだと感じています。

■上越市の弱み(課題や不安な点)は何だと思いますか。

 若者の学びや働く場が少ない

交通網の整備によって、暮らしやすさが向上した半面、若者が出ていきやすくなったと感じています。また、高校卒業までの子育て環境などは充実しているものの、その後の大学や働く場などが十分ではないように感じます。

 コンパクトなまちづくりが進んでいない

上越市は、平成17年の14市町村の合併により、面積も広がりました。

人口減少によって地域コミュニティの維持が難しくなる中、まちづくりにおいて一層、コンパクトシティの推進が必要になってくると感じています。

■今後、上越市は、どんなまちになってほしいと思いますか。



(上越総合技術高等学校の生徒との修景活動の様子)

 若者が入ってきやすいまち

若者が入ってきやすいまち、通ってもらえるような魅力的なまちになっていけばいいと思います。

 一体感のあるまち

様々な個性を持つ地域が、同じ方向を向いた一体感のあるまちになっていけばいいと思います。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思いますか。

 地域の風情や人情を次世代へつなぐ

景観づくり活動を通じて、歴史や文化、魅力的な街並みと人情味あふれる地域コミュニティを次世代につないでいければと考えています。

今後も行政と連携しながら地元高校生との交流を継続するほか、活動内容や地域の魅力を、SNSなどを通じてPRしていきたいと考えています。

 一体感のあるまちづくりを進める

文化・風土など地域の特色をいかしながら、「自分の地域だけ」という考えではなく、一体感を醸成するため、地域を越えた交流を積極的に行うなど、それぞれが密につながる体制を築いてほしいです。

 企業誘致を積極的に行う

コロナ禍を経験し、首都圏以外でも働けると分かりました。雁木のある町家をいかし、若者に魅力的な企業の誘致に積極的に取り組んでほしいです。

一緒に活動している高校生が県外に進学しても、卒業後、市内に就職し、また一緒に活動ができればいいと思います。

■上越市の強み（自慢できる点、満足している点など）は何だと思えますか。

☀ 森林をはじめとした豊かな自然

上越市は平野部と山間部がバランスよくあり、山にも多様な木々が育っており、自然が豊かだと感じています。

私たちの活動の場である森林は、雪解け水や雨水をたくわえ、洪水や土砂災害を防ぐだけではなく、森林によって澄んだ水が、川を通じて田畑や海を潤し、市外の人に自慢できる美味しい農水産物を育てています。

■上越市の弱み（課題や不安な点）は何だと思えますか。

☁ 中山間地域の過疎化

中山間地域では、特に若い人を中心に地元を離れ、平野部や市外へ移り住む人が増加し、空き家が目立つようになりました。さらに、所有者が不明な森林も増加しており、森林を整備したくても、できない場合があります。

☁ 担い手不足

林業の担い手は高齢化しており、若者をはじめとした新たな担い手を必要としています。

豊かな自然を求めている移住希望者でさえも、降雪量に驚き、上越市への移住をためらう人もいます。

■今後、上越市は、どんなまちになっていけばいいと思えますか。

🌳 豊かな自然・観光・商業が一体となったまち

1 日で山と海の両方に行くことができ、さらに市内には観光スポットがたくさんあります。自然・観光・商業が一体となってまちづくりや PR を進めることで、中山間地域や森林への注目度も向上すると思います。



（森林内の作業現場の様子）

📍 中山間地域の関係人口の増加しているまち

市内の平野部や市外に住む人に、豊かな自然がある暮らしやすい里山の整備を通じた交流により、里山や中山間地域の魅力に気付いてほしいです。

■上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思えますか。

🕒 担い手の確保・育成

担い手不足の解消に向け、行政と一緒に定住へのサポートに取り組んでいけたらよいと思っています。行政には、移住定住に関する取組の中で、職業の選択肢として林業を積極的に情報発信するほか、移住希望者がいた場合はそのつなぎ役を担ってほしいと感じています。

また、引き続き大学生との連携による里山の整備に取り組み、市内外問わず興味のある人に活動に参加してもらえるような機会をつくり、交流人口を増やしていきたいです。

🕒 農林水産の連携とPR促進

林業はやりがいのある仕事だと気付いていない人が多いと感じています。整備された森林は、水の貯蓄や浄化、土砂災害の防止だけでなく、豊かな農水産物をもたらす、持続可能な開発目標である「SDGs」や温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」の推進にもなります。

このような魅力に気づいてもらえるよう、農業や水産業と連携し取組を進めるほか、行政には、林業に関する情報発信を積極的に取り組んでいただければと感じています。